

ヨコハマ 運河と桜の物語

横浜運河ガイド連絡協議会

神代曙



ジンダイアケボノ（里帰り種）
ソメイヨシノ系で、東京調布市にある神代植物公園で偶然発見された品種です。花は淡紅色で一重咲きの中輪、ソメイヨシノよりも花色が濃くグラデーションが目立ち、花付きが良い品種です。発見の経緯は不明な点が多く、ややミステリアスですが人気品種となっています。
明治期に横浜から3,000本を越える日本の桜がアメリカに渡り、米国で新種が育ち「あけぼの（曙）」と命名されました。その後「あけぼの」が日本に里帰りし、植物園の片隅でひっそり育ち偶然発見された変種です。桜がかかりやすい「てんぐ巣病」に耐性があり開花時期と花の特徴で大岡川流域ではソメイヨシノの後継品種として植え替えが進んでいます。

大島桜



ヨコハマヒザクラ
横浜の名が付く唯一のサクラで、地元横浜市港北区の育種家・白井勲氏が石川県の兼六園に育っていた原木兼六園熊谷（ケンロクエンクマガイ）と寒緋桜（カンヒザクラ）を交配して生まれた品種です。
葉の出る前に緋紅色の大輪の花が咲のが特徴です。早咲き・中間咲き・遅咲きの3タイプがあり、早咲きは3月下旬に咲き出します。

横浜緋桜



川沿いのさくら豆知識

大岡川の運河周辺には桜の見所がたくさんあります。
中流の弘明寺あたりから横浜港までの川沿いに続く桜のプロムナードには、約700本のサクラが花を咲かせています。
また〈みなとみらい地区〉や堀割川、丘の上にも花見ポイント満載です。

流域には主に「ソメイヨシノ（染井吉野）」「ジンダイアケボノ（神代曙）」「ヤマザクラ（山桜）」「オオシマサクラ（大島桜）」「ヨコハマヒザクラ（横浜緋桜）」「コマツオトメ（小松乙女）」など、幾種類もの桜が植えられています。
桜の種類は〈自然交配〉して生まれた変種が100種類以上あります。さらに原種を交配して作り出された〈改良品種〉を加えると、その数は600種類を超えるといわれています。
大岡川の岸沿いには、「ソメイヨシノ」が多く植えられていますが現在は「ジンダイアケボノ」に植え替えがすすんでいます。

染井吉野



ソメイヨシノ（地名由来）
日本を代表する桜です。江戸時代の終わり東京（江戸）駒込村の植木屋が品種改良したものです。奈良吉野山の「山桜」と区別するため、地名である染井の名をつけたことから「ソメイヨシノ」と呼ばれるようになり明治以降、全国に広まりました。原木が同じであることから開花予想にも使われています。
「染井」の名、実は横浜とも深い関係があります。大岡川と並んで横浜の桜の名所の一つである掃部山公園に横浜能楽堂（現在改装中）があります。この能楽堂は東京駒込の近く、染井にあった事から「染井舞台」「染井能楽堂」とも呼ばれていました。小津安二郎の映画（晩春）にも登場した能楽堂です。
1965（昭和40）年に諸般の事情で解体保存されていましたが、縁あって1996（平成8）年横浜に移築再建されたものです。
花弁数：5枚、樹形：傘状
花言葉は、精神の美、優美な女性、清純、高貴

見渡せば
柳桜を
こきまぜて
都ぞ春の
錦なりける

※古今和歌集 素性法師作

発行：横浜運河ガイド連絡協議会
協力：NPO法人HamaBrige濱橋会
一般社団法人大岡川川の駅運営委員会
京浜フェリーボート株式会社
株式会社東京ベイガード

問合せ先：canalguide.yokohama@gmail.com
編集責任者：河北 直治



2025年3月15日発行

写真：松田純一